

「あなたは大丈夫？」

正しいと思って読んでいた漢字の読みが間違っていたり、言い間違っていたり、という経験が誰しもあるのではないのでしょうか？

私も、「行脚」を「ぎょうぎやく」と読んで、「未公認の記録」を「ミニコン」というロシア人の記録だと勘違いしたりしていました。

サラリーマン時代、「この本は『ひつたい』の本だ」と盛んに言っていた上司がいました。「ひつたい」って何だろうとよくよく考えてみると、「必携」のことでした。この方は偉い人だったので、誰もその誤りを指摘できないまま、ずうっとそう言い続けていました。「マツターマン」を「ワンツーマン」とも言っていました。気持ちは分かりますが……。

こういふ人もいます。「教室」という単語がパソコンで漢字変換できないとどうのを見てみると、「きょうひつ」と入力していたのです。これでは出っかかりませんよね。「いつ来てもいい」を「ふるわって」ね」という人もいました。「賑わっている」を間違えて覚えたのでしよう。帰国子女の学生バイトに取引先の宛名を書いてもらおうと「〇〇会社 御中」と書くように指示したら、「〇〇会社 WANT YOU」と書いていたという笑えない話もあります。

唄の解釈違いも多いですよ。西田佐知子が昔唄った「コーヒールンバ」という曲がありますが、中に「コーヒーもかまたり〜♪」という歌詞があります。「なぜコーヒーも鎌足(かまたり)なんだろう。藤原鎌足の頃にコーヒーがあったのだろうか」と長い間疑問でした。皆さん分かりますか？「コーヒーもかまたり〜♪」って、「コーヒーモカマタリ」というコーヒー豆の名前だったんです。こういふことって結構ありますよ。

O W L I N F O R M A T I O N

「出版人」松浦武四郎とドサンコ出版社の共演

《松浦武四郎 北海道命名150年》記念イベント  
松浦武四郎とドサンコ出版社  
2月3日(土)～15日(木) 10:00～19:00(最終日は18:00まで)  
紀伊國屋書店札幌本店 2Fギャラリースペース  
※講演会トークセッションはいずれも1Fインナーガーデンにて14:00～15:30(予定)  
(札幌市中央区北5条西5丁目7 sapporo55ビル TEL011-231-2131)  
入場無料

幕末に蝦夷地を奥深くまで旅した三重県出身の探検家・松浦武四郎。「北海道の名付け親」として知られる武四郎はまた、その探査の克明な記録を編集・出版した膨大な著作物を遺しました。生誕200年でもある2018年、北海道を拠点とする「ドサンコ出版社」が集い、出版人・松浦武四郎の足跡とともに、地域に根ざした各社の書籍を展示します。

イベント期間中、2月4日には北海道ノンフィクション集団代表の合田一道氏を講師に迎えた講演会、10日には地域政策プランナーの小磯修二氏をモデレーターに、北海道の出版を牽引する3氏のトークセッションを開催。武四郎の出版人としての側面を照らし、地方出版の未来を発信します。



ほっこり絵本の原画・イラスト展

絵本「きょうのおやつは」出版記念  
あべみち子 おやつほっこり展  
3月3日(土)～8日(木) 10:00～19:00(最終日は18:00まで)  
紀伊國屋書店札幌本店 2Fギャラリースペース  
(札幌市中央区北5条西5丁目7 sapporo55ビル TEL011-231-2131)  
入場無料

小樽在住のイラストレーター・あべみち子さんの手による絵本「きょうのおやつは」の発表を記念して、紀伊國屋書店札幌本店で原画展が開催されます。会場には絵本に使われた全ての原画のほか、このイベントのために描き下ろされたおやつのイラストが展示される予定。甘い匂いがいまでも届きそうな柔らかなタッチのイラストは、訪れたみなさんをほっこりと包み込みます。

主人公「もこちゃん」と一緒にわくわくしながら、おやつを目で味わえる本作のように、子どもたちの五感を育てるおはなしを紡ぎ出す、絵本作家・あべみち子の世界をお楽しみください。

あべみち子さんの作品はホームページ(<https://www.abe-mi.com>)でもご覧になることができます。



中西出版/A4変形判34頁  
2018年3月3日発売予定

野次、拍手、喝采… 壇上の青春

われ壇上に獅子吼する  
青年弁論の世界から  
齊藤俊彦著  
定価:本体1,500円+税(電子書籍版は1,000円+税)

青年団活動が隆盛を迎えていた戦後、各地で青年弁論大会が盛んに行われ、若者たちは弁論に青春をかけ、若い力と心の叫びをその7分間に昇華させました。

本書では著者が生まれ育った北海道江別市を中心に、往時の青年団活動の様子と、弁論にひたむきに取り組んだ青年たちのその後の半生を取材。また3章では多様化が進む今日の青少年弁論の現状と、現代の若き弁士たちの姿を紹介しています。



中西出版  
四六判、366頁  
2017年10月刊行  
※電子書籍の価格は希望小売価格

医療用語から神話を紐解く

現代医療とギリシャ神話  
岡本五十雄著  
定価:本体1,800円+税

ギリシャ神話を語源にもつ医学・医療用語の中から「身体の部位」「心理学用語」「病名や症状」など約40語を取り上げ、由来となった神話上のエピソードを紐解きながら解説。北海道医療新聞の新春・夏季特集号で好評を得た連載の書籍化です。

また岡本氏はエッセイ「北の文学三巨星 三浦綾子・渡辺淳一・河野文一郎先生との出会い」を同時発売。北海道文学史に輝く3氏との対話から生まれた一冊です。



中西出版  
B6判、134頁  
2017年12月刊行

色鮮やかな郷土記念誌

だての世紀  
だての世紀制作委員会・編  
定価:本体1,000円+税

2019年に誕生150周年を迎える北海道伊達市から、新たなスタイルの郷土記念誌が発刊されました。

1870年に仙台亘理の当主伊達邦成率いる集団移住により開かれた同市。その150周年を目前に、郷土の歴史や文化、現在の伊達の生活・経済を支える人々100人以上を丹念に取材し制作。地域の魅力を網羅した内容に加え、地元的女性をモデルに起用した華やかな紙面で雑誌のように楽しめます。



だての世紀制作委員会  
(発売元:中西出版)  
変形判273×210mm、280頁  
2017年12月刊行



今年「北海道命名150年」とも「明治150年」の節目の年とも言われる。松浦武四郎の案を元に蝦夷地が「北海道」と決まったのは明治2(1869)年だから、疑問を持つ人がいるかも知れない。これは、「150」を前者は「年目」として、後者は「周年」として扱っていることに起因する。武四郎を「キーパーソン」と位置づける道の主導で、昨年からの関連する催しが実施、予定されている。我々道内の出版社もこの機会を捉え、紀伊國屋書店札幌本店様の主催で、道内出版社の活動をアピールする記念イベントをこの2月に開催する。また2018年は武四郎の生誕200周年にも当たり、出身地三重県松阪市では生没月である2月に記念式典が行われるそうだ。(Y)

●発行・編集／中西出版(株)  
〒007-0823 札幌市東区東雁来3条1丁目1-34  
電話011-785-0737 FAX011-781-7516  
E-mail: owl@nakanishi-shuppan.co.jp  
●発行責任者／林下英二  
●発行日／2018年2月5日



<http://nakanishi-shuppan.co.jp>